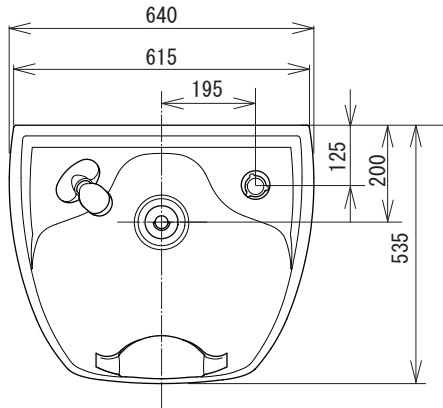


設置の前に

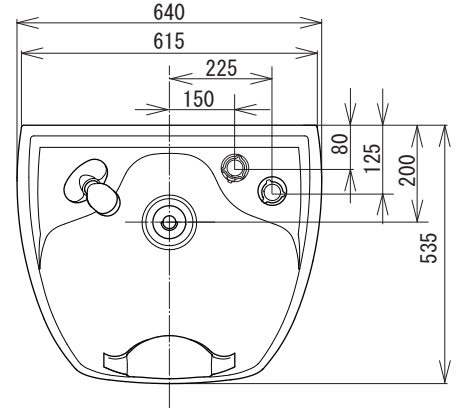
全体レイアウト図

<外観寸法図>

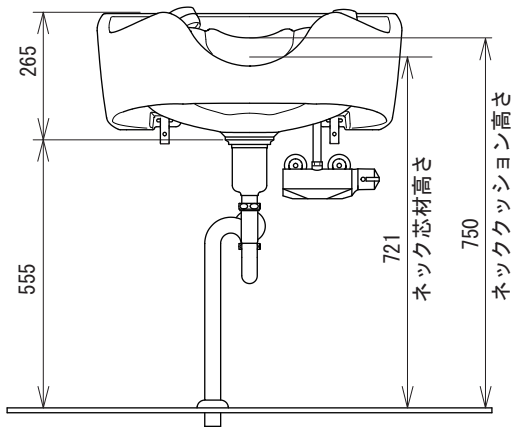
■上面図（1コックタイプ）



■上面図（2コックタイプ）

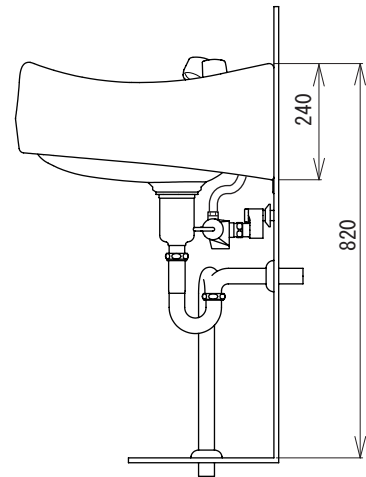


■正面図（1コック、2コックタイプ共通）



(図は1コックタイプ)

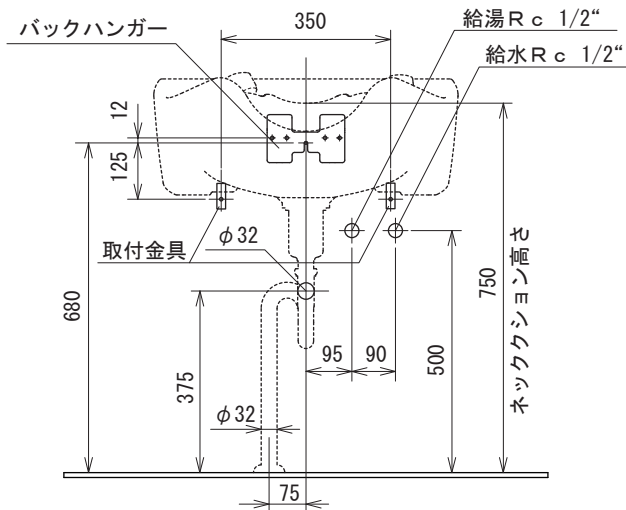
■側面図（1コック、2コックタイプ共通）



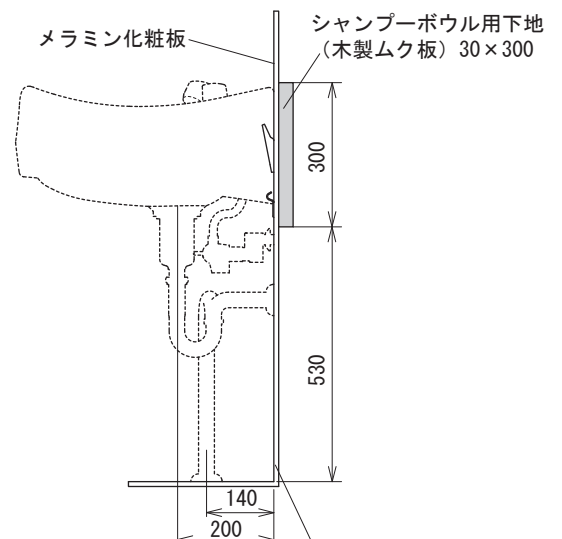
(図は1コックタイプ)

<配管寸法図>

■正面図（1コック、2コックタイプ共通）



■側面図（1コック、2コックタイプ共通）



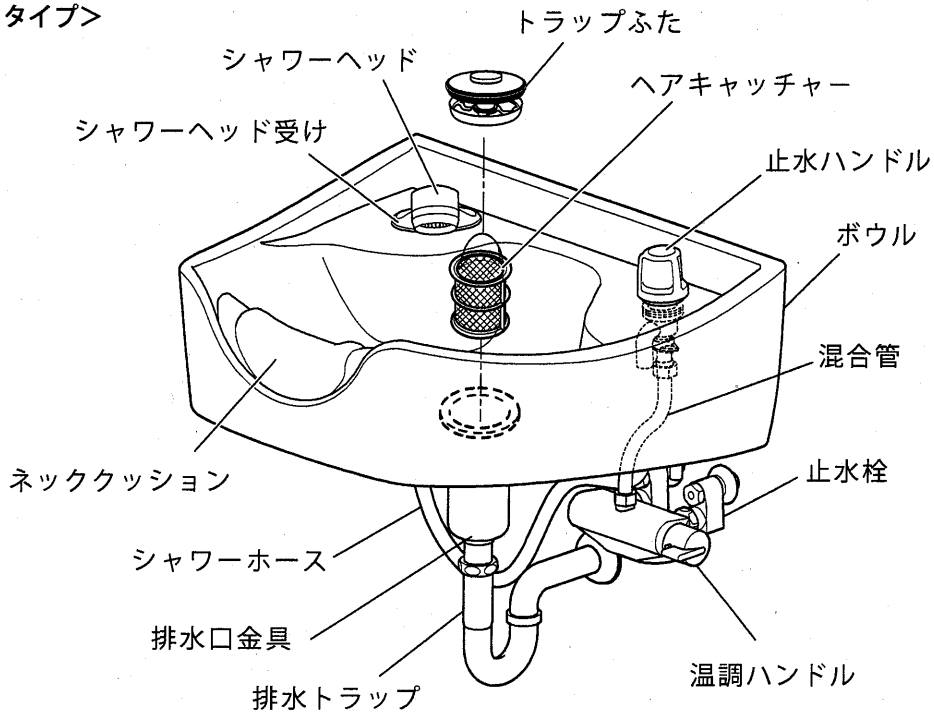
- ◆ 上記寸法は、製品により多少バラツキがあります。
- ◆ ネッククッションの高さは製品によりバラツキがあります。

ランバコア(厚さ18)
又は、コンパネ(厚さ12)

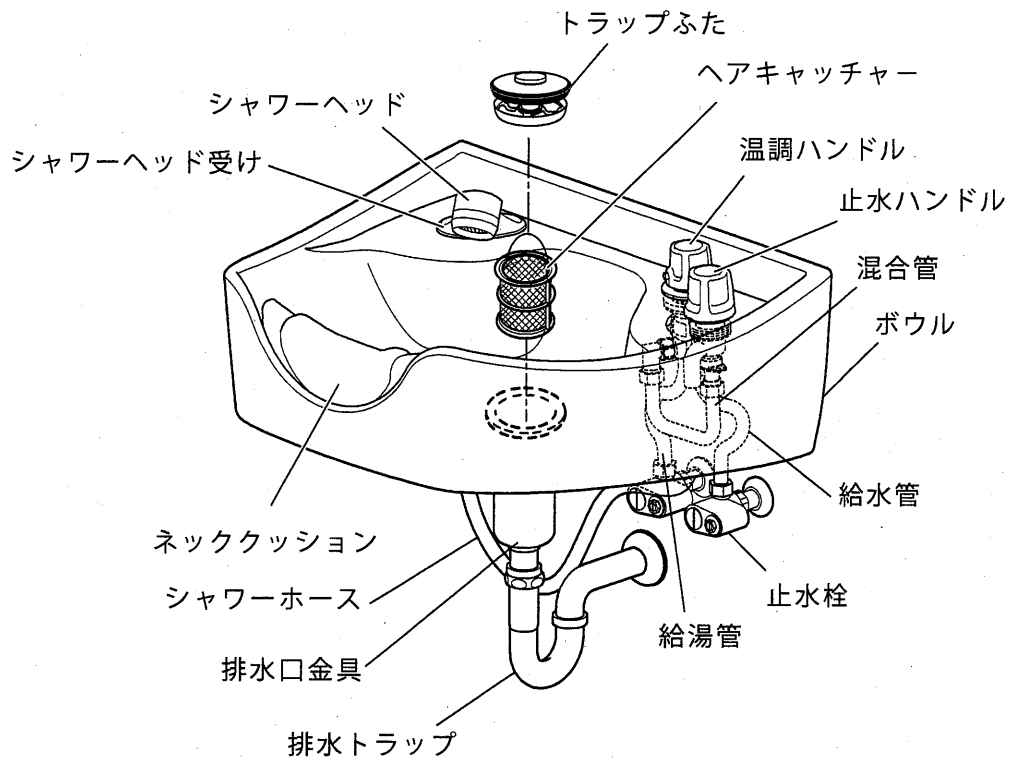
<部品構成説明図>

■機器本体

<1コックタイプ>



<2コックタイプ>



■床面について

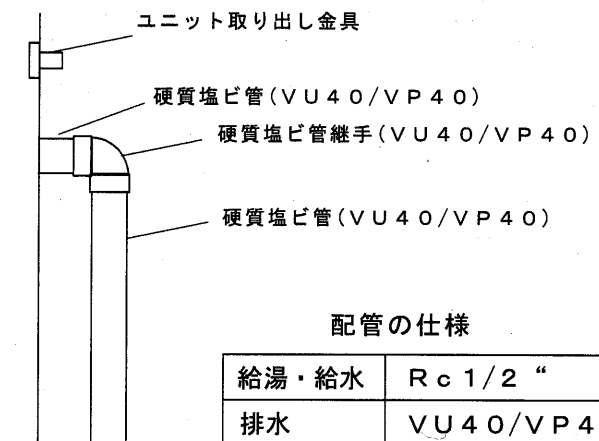
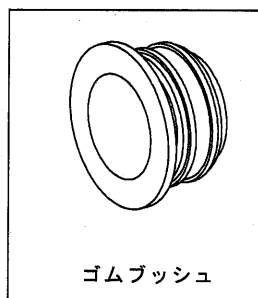
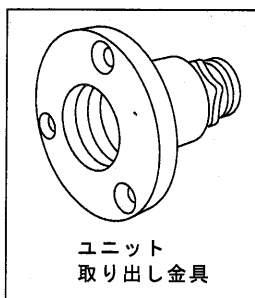
- 床面材料・床面仕上げ材は、防水材もしくは防水加工したものを使用してください。
- 床面は必ず水平を確保してください。
- 床面は、取付部分に凹凸がないよう平滑にしてください。

■壁面について

- 壁面取付のための壁面下地は30mm厚コンパネ以上の強度が必要です。
石膏ボードや30mm以下のベニアの場合、指定位置に木棧を入れて補強してください。
(2ページ参照)
- 壁面仕上げは、メラミン等の防水性の高い材料を使用してください。
(シャンプー時の水はねが考えられます。)
- 取付面が垂直であることを必ず確認してください。
(垂直でないと、ボウルのネック高さが変わったり、排水不良の原因となります。)

■配管立上について

- 排水管の立ち上げには必ず硬質塩ビ管及び硬質塩ビ管継手(VU40/VP40)を使用してください。
施工後は、立上排水管がぐらついたりがたつかないかを確認してください。
- 壁面(あるいは床面)への排水管の立ち上げには、必ずゴムブッシュ(別売)を取り付けてください。
- 壁面への給水・給湯の立ち上げには、必ずユニット取り出し金具(別売)を取り付けてください。



■漏水対策について

- 階上設置される場合は、必ず防水処置(防水工事、ステンレス鋼板製等のパンの設置、もしくは漏水センサーの設置等)を行ってください。

■配管施工について

- ここに書かれた事項は、配管施工に関する重要な内容です。
この内容を十分にご確認の上、正しい配管工事を行ってください。
- 本製品を設置されるときは、『タカラグループ給排水設備工事標準』、および本書の『配管施工上の注意』に基づいて配管施工を行ってください。注意を怠って配管されると、ミキシングが満足に働かず、一定温度のお湯が得られないことがあります。
- 本製品は室内専用です。設置は必ず室内に行ってください。

■配管施工上の注意

○給水（一次給水）配管

- ・市水道直圧管の場合、各水道局指定の工事店に依頼し、その地域の“水道局施工基準”等の法規に従って工事を行ってください。
- ・市水道直圧管以外（高架水槽下り給水管等）の場合、その地域の“水道局施工基準”等の法規に従って工事を行ってください。

○給水配管には錆の発生する管材料は使用しないでください。

原則としてVP管または、その地域の指定材料をご使用ください。

○給湯配管には原則として脱酸銅管、Lタイプを使用してください。

○給湯・給水配管は原則として同径同圧にしてください。

○管の切断面は必ずリーマをかけてバリ取りをしてください。

○空気溜りの原因となる逆U字配管（鳥居配管）は避けてください。

○給湯・給水管内の配管くず・ゴミ・砂・油はトラブルの原因になりますので、必ず除去してから配管接続をしてください。

○配管接続を行い、通水テスト後にストレーナーおよびシャワーヘッドの掃除をしてください。

○排水管の勾配は、排水管径φ75未満は1/50以上、φ75以上は1/100以上にしてください。

○湯・水を逆配管しないでください。

逆配管は水栓金具の温度調節不良の原因になり、やけどの危険があるなどトラブルの原因となります。

○給湯機からの給湯配管は、抵抗を少なくするため最短距離にしてください。

長くすると温度変化やお湯の出が悪くなる原因になります。

○配管後は、必ず保温材を巻いてください。

○温水ボイラーの配管について

- ・給湯本管・給水本管は原則として同径同圧にしてください。
- ・温水ボイラー設置については、必ず専門業者に施工依頼してください。

○器具にヘアキャッチャーが内蔵されています。

使用条件

■使用給湯・給水条件

使用水	<ul style="list-style-type: none"> ・上水道水（飲料不可の井戸水やサビ・砂を含んだ水は使用しないでください。） ・硬度が80ppm以上の場合は、機器本体へのスケール詰まりを予防するため、軟水器による処理を行ってください。また、飲料可能な井戸水の場合、シャンプー時に泡が立ちにくい場合がありますので、同様に軟水器による処理を行ってください。
給湯・給水圧力	<ul style="list-style-type: none"> ・0.1~0.4MPa(1~4kgf/cm²)の範囲にしてください。また、複数台での使用の場合でも0.1MPa(1kgf/cm²)以下にならないようにしてください。 ・給水圧力≧給湯圧力にしてください。 ・給湯圧力と給水圧力の差は、0.2MPa(2kgf/cm²)以内にしてください。
機器への給湯温度	<ul style="list-style-type: none"> ・給湯温度は80℃以下にしてください。 ・使用シャワー温度より10℃以上高くしてください。
給湯機	<ul style="list-style-type: none"> ・給湯機は、理美容サロン専用の暖流システムのご使用をおすすめします。その場合の施工方法は、『タカラ同時給湯システム暖流工事の手引き』を参照してください。 ・瞬間湯沸かし器をご使用の場合は、16号以上を使用してください。（洗髪能力は瞬間湯沸かし器1台につき、MAJOLICA PORTO機器本体1台です。） ・貯湯式ボイラーをご使用の場合は、貯湯式ボイラー説明書を参照してください。 ・給湯には蒸気を使用しないでください。